

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 27年 3月 10日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490900036		
法人名	有限会社 まつした		
事業所名	グループホーム なごみ		
所在地	広島県三原市明神二丁目11-13 (電話) 0848-67-0294		
自己評価作成日	平成27年2月15日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=3490900036-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成27年3月4日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none">・入居者の笑顔が多く見られるように、一人一人に合った対応を心掛けている。・安全、安心して生活ができるグループホーム作りを目指している。・職員が認知症についての学習機会を持ち、技術・知識の向上、自己研鑽に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

近隣に提携病院や商業施設のある、開設8年目の施設である。職員は法人理念を基に、一人ひとりの利用者が生きがいを持ち穏やかに過ごせる生活を送れる支援を目標に『笑顔』で利用者・家族と接する事をモットーとしている。職員の年齢層も20代～60代と幅広いが、職員間のチームワークは良く、運営に関して幅広く提案意見がされ業務の改善に繋げている。食事のメニューレシピは、法人本部の栄養に関する専門職が作成し、利用者の好みに合わせたメニューと栄養バランスが摂れた食事が提供されている。医療面では、提携病院が施設の近隣にある。又、法人のグループに病院があり、緊急時及び夜間でも対応ができる24時間体制が出来ているため、利用者・家族にとって安心な施設である。
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	4つの理念を設定し、会議等でも理念について確認する場を持っている。理念を意識した介護・援助を心掛けている。	法人基本理念『穏やかな生活』『生きがいを感じる生活』『尊厳を認め合う生活』『安心と安全を確保し生活しやすい環境の提供』の4つの理念を基本に日頃の支援対応及び職員カンファレンスで事例を用いて検証し、職員が理念を共有ができるよう努められている。	法人理念はあるが、事業所としての理念目標を持たれていない。今後、事業所年度目標を設定され、法人理念を現場で活かし職員が法人理念を共有していただける取り組みを期待します。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の行事へ参加したり、ホームに地域の人たちに来ていただいたりして交流を持っている。	地域の町内会長・民生委員の方々と日頃より親睦を深めており、運営推進会議に毎回参加されている。地域の『いのこ祭り』や『夏祭り』にも、利用者と共に参加されている。事業所行事（ひな祭り、七夕、クリスマス会）に地域の方にも声掛けし、参加を頂いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議等で、実際に介護として行っている対応方法等を話すことで地域の方たちには、理解を深めてもらっている。今後は実際に話す機会等を設けるようにしていきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	偶数月に運営推進会議を開催し、ホームでの生活の状況等をお伝えしている。参加者から助言等もいただき、運営に反映させている。	運営推進会議は、市町、高齢者支援センター（地域包括支援センター）、町内会長、民生委員、家族など参加され、運営状況、事故報告、ヒヤリハットなど報告され、活発な意見交換がなされている。感染症、インフルエンザ等の対策についての意見に対して、薬局代表者から感染症対策の指導を受け運営に反映している。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	事故等があった際には早急に連絡を行い、対応をしている。また、不明な点等がある際には頻りに連絡を取り、助言を受けている。	運営推進会議に市町担当者が毎回参加され、意見を頂き連携を図っている。実務上不明な点なども相談している。又、困難事例等の連絡相談を密に取り対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束にあたるケアについて、会議等で再三、確認を行っている。やむを得ず、玄関等を施錠する場合は、常時するのではなく、必要最小限にするように徹底している。</p>	<p>法人内研修において「身体拘束にあたるケア」について、年回2回研修を行っている。自己評価にある「玄関等を施錠する場合」とは、インフルエンザ等の感染症が流行している場合等に限り、やむを得ず外部からの入室を制限している。通常、夜間以外は玄関の施錠されていない。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>年1回は高齢者虐待防止法に基づく虐待の定義の確認を行っている。ミーティング等で実際に行っている。ケアが虐待に該当しないか検討している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>年に1回は、社会福祉士の資格を持つ職員から成年後見制度等の説明を会議で行ってもらい、学習する機会を持っている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時には、管理者が十分説明を行い疑問点がある場合には丁寧に説明を行い対応している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>玄関に意見箱を設置し、自由に意見を書いていただける準備をしている。運営推進会議でも家族の意見を聞くようにしている。</p>	<p>玄関設置の意見箱や、日頃の家族の来訪時に、意見要望を伺っている。運営推進会議などを利用し、意見箱等の意見の報告と改善状況を説明している。家族の意見で、居室内の清掃の不備の指摘があり清掃を徹底するなど業務改善に繋げている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	月に1回、ミーティング時に意見交換を行い、職員の提案等を検討している。	代表者・事務長・管理者は個別面談等は設定していないが随時個別の相談や改善提案等の相談できる気配りをしている。業務改善等の意見があった場合は即日会議を開いて検討し業務に反映するように努めている。防火上の観点から施設廻りの蔦（グリーンカーテン）を撤去し花壇に変更するなど職員提案を活かしている。	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	経営サイドとも話し合いの場を持ち、仕事がしやすい、やりがいのある環境であるように努めている。		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	他の事業所へ見学に行かせてもらったりして、良いところは取り入れたりするようにしている。		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	他の事業所との交流や見学等を積極的に行っているように取り組んでいく。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	本人やご家族から、今までの生活歴や思い等を聞きとり、本人様が安心して生活ができるように対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>入居の際には自宅でどのようなことに困っていたかを聞いている。また、入居にあたって不安なことがないかを聞くようにしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>グループホームの利用が妥当ではないと判断した場合には、現在の状況に適したサービス等の説明・紹介を行うような対応をしている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>自分でできることは自分ですという自立支援の考えに基づき、出来ることには積極的に参加してもらうような対応を心掛けている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>ご家族の面会時には、日頃の生活状況をお話ししている。入居してもご家族との外出等は積極的にしてもらっている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>友人や知人が訪ねてくる人もおり、自分の部屋で、ゆっくりと話が出来るようにしている。</p>	<p>利用者は比較的近隣の地域の方が多く、友人知人の面会が多い。友人知人が来訪の際は、居室でゆったりお話が出来よう、気配りがされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者の個性に合わせたリビングでの席の配置等は常に検討している。一人ひとりが安心感を持って穏やかに生活ができるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス終了後も必要があれば、ご家族等の相談には応じている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	家族の意向は十分に聞き、本人の思いも出来る限り聞いて、介護計画に反映させている。	入居時のアセスメントやモニタリングの際に、思いや意向について聞き取るようにしている。聴き取りが困難な事例の場合、利用者の発言ノートを作り、利用者が発言した一言一句を書き取り集計分析して家族と検討を重ねて、対応策を実施し、症状が改善された事例もある。管理者職員は、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴や生活習慣の把握に努め、本人のケアに活用できそうなことは積極的に取り入れている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	本人の出来ることとできないことの見極めは常時行っており、出来ることは、これからも出来るように援助している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>月1回のミーティングで、入居者の状況等について話し合いの場を持ち、その時々に応じたケアプランを作成している。</p>	<p>入居時のアセスメントを基に、毎月の職員カンファレンスで、利用者ごとに介護計画を検討を行っている。又、6か月ごとにモニタリングを行い、本人・家族・職員・関係との話し合いの場を持ち、現状に即した介護計画になるようにしている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>介護記録に生活状況のすべてを記録するようにしており、出勤時には必ず記録を確認してから、その日の勤務に入るようにしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>グループホームで対応できないような場合は関係機関に相談をして、入居者のニーズに応えられるように取り組んでいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>近隣の地域資源を完全には把握出来ていないが、今後、入居者に合うような社会資源がある場合は結びつけていけるように援助していきたい。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>万全の健康管理を行うために協力医療機関と連携し、異常の早期発見、重度化予防に努めている。</p>	<p>利用者・家族の意向に沿い、かかりつけ医を決定している。かかりつけ医への受診は、基本的に家族で行って頂いている。又、近隣の提携医による、毎月1回の定期往診が行なわれている。法人グループに松下クリニックがあり、緊急時や夜間でも、24時間体制で、対応が可能なので利用者・家族は安心である。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>現在、看護職員は勤務していないが協力医療機関と連携し、健康管理に努めている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には入居時の情報提供を行い、退院時には必要に応じて、担当医等とのカンファレンスに参加し、退院後もスムーズにホームでの生活が出来るようにしている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>現在、看取りは行っていないが、重度化した場合でも、出来る限りホームで対応をしている。</p>	<p>入居時に重度化した場合の説明を行っている。現在、看取りは行っていないが、利用者・家族の意向に沿い、出来る限りの対応を行い、医療及び関係機関と連携、相談できる支援をしている。今後、体制を整え、看取りを検討している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>年に1回、職員は救命救急の訓練に参加し、事故等の緊急時にも対応出来るようにしている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>年2回の消防訓練を実施している。今後は地域の方との合同の避難訓練を行っていききたい。</p>	<p>消防訓練を年2回（昼・夜想定）で実施している。1回は自主訓練、もう1回は消防署を招いて行っている。</p>	<p>年2回、消防訓練は行なわれているが、夜間は想定のみでの訓練になっている。実際に近い環境の中で訓練を実施することで、より問題点が明らかになる。又、今後の目標として言われている地域の合同避難訓練を実現し、地域とより深い協力体制を築く取り組みを期待します。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人情報が外部に漏れないように細心の注意を払っている。特に入居者の個人名はアルファベット4文字を用いて表記し、個人名が特定されないように配慮している。	利用者の個人情報保護のため、リビングでの打ち合わせ等は、部外者に名前を特定できない記号を使用する気配りがされている。利用者への声掛け等で管理者が気になる言葉があれば、即日会議を開いて問題が提起され、職員全員の問題として検討し、対応する取り組みがされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の気持ちや思いを聞き出せるような、声掛けの仕方の工夫等を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個々の生活のペースに合わせて、職員の都合を押し付けることをしないように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の好みを取り入れた服や靴等の選定をしている。好み等は、ご家族の方にも聞くようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	可能な限り、職員と一緒に調理や片付けに参加していただくように対応している。	職員と一緒に、利用者に出る範囲でテーブル拭きや配膳、下膳をして頂いている。食事のメニューは法人本部の栄養管理士が事業所の利用者に合ったメニュー構成と、栄養バランスが摂れたレシピを作成し、職員が調理している。又、行事に合わせて、メニュー変更や行事弁当を作るなど食事を楽しむ工夫がされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>個々の水分摂取量と食事摂取量を、介護記録に記入している。食事は栄養バランスを考えたものを提供している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後に口腔ケアを行っている。口腔内の異常や義歯の不具合等がある場合は，近隣の歯科に行って診察をしてもらっている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>個々の排泄パターンを把握し，出来るだけ自分でトイレで排泄ができるように，状態に合わせた援助をしている。</p>	<p>個々の排泄パターンを確認把握し，個々に合わせトイレの誘導を行っている。入院後，レベル低下された利用者をオムツからリハビリパンツ、布パンツまで回復させた実績を持たれ自立に向けた支援を行っている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>水分摂取量に留意し，便秘を予防している。慢性的な便秘の場合には，主治医にも相談している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>本人のタイミングを聞いて，気持ちよく入浴していただけるように対応している。</p>	<p>入浴は，午前9:30から11:30の時間に入浴されている。個々の利用者の希望に沿い，平均週2～3回入浴して頂いている。季節に応じて，入浴剤を替えて温泉気分を味わって頂くなど，入浴を楽しむ工夫がされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>個々の生活習慣に合わせて、日中も自分の居室で好きな時に休息が取れるようにしている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>連携している保険調剤薬局の薬剤師に処方薬の作用・副作用等の説明をもらっている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>自分のしたいことができるようにご家族の方とも協力しながら、対応している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>年に2回、春と秋に入居者と職員で外出している。ご家族の方と一緒に外出する方も多い。</p>	<p>事業所の近隣を日常的に、天気の良い日は散歩をしている。又、近隣のスーパーに、利用者と共に食材等の買物を行っている。年2回春と秋に利用者全員の遠足(遠足)で、花見や紅葉狩りに出掛け、利用者・家族を含め外出支援に努めている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>家族の協力で所持したい方は所持できるような体制にしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>希望があれば、電話も手紙も自由にやり取りをしてもらっている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>リビングに季節感を出すために、毎月、壁画を工夫している。リビングは日当たりが良いので、自然な光で過ごしている。</p>	<p>リビングは日当たりも良い。壁面には利用者と職員とで作成した、季節に応じた作品が展示されている。リビングのレイアウトも利用者の動線を検討して職員の意見により変更を行っている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>一人ひとりが自分のしたいことが出来る様に配慮している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室には自分が自宅で生活していた時に使用していたものを持ち込んでもらうように、ご家族にもお願いしている。</p>	<p>利用者・家族には、馴染みの家具等を持ち込んで頂いている。火気類及び食料品の直接の持ち込みは禁止している。食料品は食中毒の恐れがあるため事業所が管理している。居室内は使い慣れた家具や日用品が置かれ穏やかに過ごせる空間となっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>トイレや居室等には、わかりやすいように目印をつけて対応している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム なごみ

作成日 平成27年3月23日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	年2回、消防訓練は行われているが、夜間は想定のみでの訓練になっている。実際に近い環境の中で訓練を実施することで、より問題点が明らかになる。また、今後の目標として言われている地域の合同避難訓練を実現し、地域とより深い協力体制を築く取組みを期待します。	夜間を想定した訓練を実施することで実際に近い環境での訓練を行う。地域との連携、協力体制を整える。	次回の消防訓練にて、夜間を想定した訓練を夜間帯に行う。また、運営推進会議にて、地域の協力をお願いして、参加を要請する。	6カ月間
2	1	法人理念はあるが、事業所としての理念目標を持たれていない。今後、事業所年度目標を設定され、法人理念を現場で活かし職員が法人理念を共有している取組みを期待します。	職員の意見などを聴取し、事業所としての理念目標を定め、法人理念と同様に職員に周知徹底させる。	事業所としての理念を定め、職員の見やすいところに掲示するなどして周知させる。また、その意味合い等も理解徹底させる。	6カ月間
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。